

不定期刊 五行歌・ことばなど

箋

sen

編集・五行歌と文 金沢詩乃



お久しぶりです、発行人です。

不定期に違わずようやく第二号をまとめました。

(前回第一号と記載するのを忘れていたのは内緒で)

この「箋」は小冊子という形をとってますが、基本発行人の普段感じた事やこれはこうなんじゃないだろうか？という何気ないメモを積み重ねて自分的に体裁よくまとめた復習&忘備録ノートの的なものでもあります。

ですのである意味、**独りよがり上等**な体裁になっております。

それでも世間一般の方々が知っている短歌、俳句などとはちょっと違った「五行歌」というものはどんなものなのかと目で見て感じていただければいいなあとも思っております。

前回に引き続き、歌作品も載せますが今回は準備体操的な「粗書」ならぬほぼ半年分の作品からチョイスした「抜描」になってます。

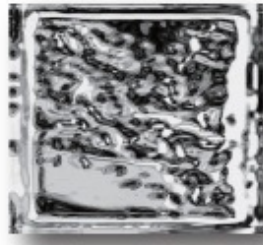
震災も含め激動の日々であった分いろいろ感じ入ったものもありますし、若干環境も変化しものの感じ方もそれに倣って変わってきたように思います。

改めて世の中は単純じゃない、絶望と希望だけではないということを忘れえないように。

最後決めていくのは生きている人間でしかない。

皆さんはどう思いますか？

nuki 抜描 gaki



かなしみを

閉ざすな

いのちは

涙でしか

燃やせない



そつと

なでて

ぎゅつと

わしづかむ

言葉は手と思う

肩を揉む

じつくり揉む

手とことばで揉む

あなたの呼吸を

取り戻すため



洗面洗面洗面器の蟹のように

もももももがいてるの

憎み憎み憎みたいの

かかかかかたちのあるなにかを

かかかかかたちのないなにかを



迷わば

濁る

ひよらん

ただ一色を

奔らせせるが如く

生きよ



「書く」と「描く」

四季や日常の描写を、文章や短詩系に書きとどめていくこと。

言葉だけ見れば文章系は「書く」イラストや絵画であれば「描く」と分類出来るけれど突き詰めていけばそれほど区別するものでもないのかもしれない。

とりあえず目の前のものや自分自身が纏っている今という時間を

主に歌の題材にしているのだけれど今であれば時期的に **冬**。

20代くらいの時は正直

「えー季節なんて年取ってからでも書けるじゃん」と思っていました。

その通りです。

いわゆるアラフォーの深い淵に足を踏み入れてきたときからしみじみと

季節の移ろいを味わうことがありがたくなってきました（←ここ重要。

「うれしい」とか「楽しい」とかじゃなく「ありがたい」という心境）

それなりにものの道理が見えてきたり、得るもの失くすもの出会うもの

去るもの等々世の理に憂うことが多くなったとき、当たり前そこに在り、延々と生の営みを繰り返してきた「自然」という確かな存在に心寄せたく

なるのかもしれない。

さて話を冬に戻します。

私が今住んでいる北海道はある意味自然の宝庫。

今時期は特に北国なだけあって冬の醍醐味満載です。

経済的にも稼ぎ時期です。

（除雪費用で激赤字になるのは置いておいて）

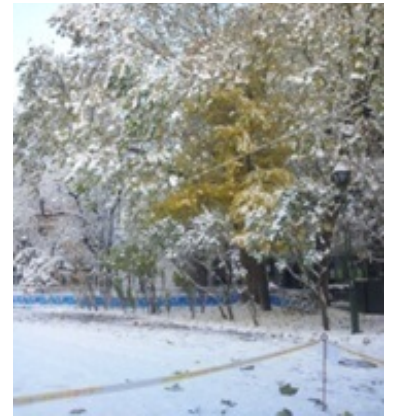
ここに雪の降り始め時期に撮った写真があります。

これを見乍らその時の感じたことを思い出しつつ、



ちょこっと五行分けにしてみますとこんな感じ。

一夜にして
積もった雪
一本だけ
緑の姿を残した木が
佇んでいる



単純に散文の五行分けなのでこれはまだ歌の段階でないです。

自分的には主眼は「真ん中の雪が積もらなかった木」で、
寧ろそれを描くことで突然の冬への驚きを表現したかったのです。
ですのでそこをポイントに推敲していきます。

箇条書きの中でも「自分が特に目が行った箇所」というのはあるはずなので
そこに焦点を合わせて肉付けや置き換えなどしていけばいいのかなと思います。
推敲の仕方もあるそれぞれなのであくまでこれは私的な方法という事でご了承くださいませ。
もちろん推敲なしで完璧なイメージがどーん！というのあります。

雪降るなか

ひっそりと守られて①

まだ若い木は②

冬の訪れに

息をのんだまま③

①前半の2行～時間を遡って、雪は降り積もっていったであろう様子を推測で描いてみました。
この写真を写した場所は札幌の大通公園です。

道外の方からは想像つかないでしょうが、基本ここは街路樹も含め街中の木はとにかく丈が高い
ので、

公園といっても森に近い場所もあります。

周囲はビル街で日の当たり具合もあって、何気にそれぞれの木の丈や紅葉の進み方も違うのです
。

②この緑の木も周りの木のせいかなり大きくは育たないけど、
小さいお蔭で周囲の木に雪から守られて一夜を明かしたのかと思います。





③後半2行の記述は3行目の若い木の初々しさを際立たせたかったのと同時に、感じた私側の目線でもあります。

昨日まで全く降ってなかったですからねえ（当時は）
冬が来たんだなあという緊張感も含ませました。

続いては屋外じゃなく屋内から撮った写真です。

もちろんこちらも冬、というか今しがた資料としてスマホで撮影しました（笑）

その時の様子をまんま箇条書きすると

ブラインド越しに
外を眺める
道路の雪が今日は
溶けていて
あたたかい日



外と室内との隔絶感とはちょっと違った光景です。

単純に外が猛吹雪で「おそとでたくないよー」状態であれば、
そういった隔絶感から生まれるものを拾い出せるのも出来るでしょうが。

ゆるゆると
ほどける時間
こわばった道も
今日は
まだ見ぬ春に寛いでいる

うわー難しいな

（これリアルタイムで推敲してます）

寒いのを寒いと書くのは難しくないのですが

寒いのに暖かいというのは難しい。

自分目線だけじゃない「つなぎ」的なものがほしい。

例えばよくある「外はこんなに寒いけどあなたと触れあう肩はあたたかいの♥」みたいな。

うすぐもりの

立春①

それでも緩やかに

道も人も

解（ほど）かしてゆく②

①実際立春はこれ書いている時点では昨日でした。

ええ、古来の歌人や俳人の常套手段を使ってみました（笑）

この場合の「つなぎ」は状況表現。季節の変わり目で春といえば＝寿ぐイメージがありますが、うすぐもりと入れてトーンを下げてみました。

ひらがなにしたのは「薄曇り」とすると本当にダークな感じになるため。

②これは雪解けにもかけています。

冬の寒さで頑なでこわばった気持ちや景色を、春には遠い空の下だけでもゆるませてくれた今日の気温でありました。

ただ写真と「立春」の雰囲気ややミスマッチなところが気になるのですが、

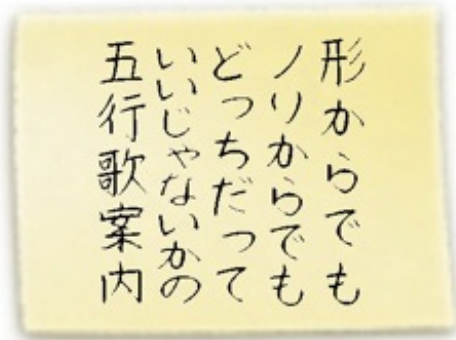
あくまで写真に添ったイメージであるべきか、

そこから逸脱しても違う形で出来上がってもそれはそれでいいのかは、それぞれの考えですね。

何らかのこういった素材を題材にヒントを経て言葉を選び置いていくことで、

また違った拡がりを発見できたりすることもいいのではないかと思います。





②こそっと交流編

前回の続きです。何気に続いています（笑）

前回はブログやサイトを見たり自分でも書いてみたりなどのおすすめでしたが
今回はちょっと足を踏み込んでみましょう。

◆ツイッターやフェイスブックを覗いてみる

五行歌をされている方にも何気にツイッターなどSNSを活用している方は多いです。

そして何気に五行歌の会にも公式アカウントはあったりします。

こちらでも公募やイベント、歌集の出版のご案内などされているので

よろしければfollow me

（たぶん管理している中の人と同じです）

ツイッターアカウント <https://twitter.com/#!/gogyohka>

Facebook <https://www.facebook.com/Gogyohka>

そこから実際五行歌をされているフォロワーさん等辿って行けばいいかと思います。
多種多様な趣味や活動をされている方も多いのでそれ含め触れ合いの幅を広げたい方であれば
おすすめではないでしょうか。

◆勇気を持って作品を発表してみる

五行歌用の縦書き掲示板を運営しているサイトがありまして

誰でも五行歌挨拶通り <http://5line.jp/>

初めてアクセスした方にもとても親切な作りになってます。

コミュニケーションの場として気楽な感じで参加してみてもいいでしょうか。

いつになるかは不明の次回は・・・歌会参加編です。ではでは。

不定期刊～箋～第二号

<http://p.booklog.jp/book/43910>

著者：金沢詩乃

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/shinop/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43910>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43910>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.